

2022年 3月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

- 3月 6日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会: 溝口 春江 感話: 榎本 潤
聖書講話: マルコによる福音書 11章12~26節
「イエスの神殿肅正—その1、祈りについて」 水戸 潔
- 3月13日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会: 武井 めぐみ
聖書講話: イザヤ書 58章
「神に喜ばれる断食とは」 武井 陽一
- 3月27日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会: 大手 美千代 感話: 伊藤 純子
聖書講話: ヨハネによる福音書20章
「復活の信仰」 (2002年5月5日) 溝口 正

神に従う道 神に喜ばれる断食とは イザヤ書58章 溝口 正

6 わたしの選ぶ断食とはこれではないか。

悪による束縛を断ち、軛(くびき)も結び目をほどいて、
虐(しいた)げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。

7 更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え、さまよう貧しい人を家に招き入れ、
裸の人に会えば衣を着せかけ、同胞に助けを惜しまないこと。 (イザヤ書58章6~7節)

6節から預言者は、神に喜ばれる真の断食について語り始める。お前たちは弱く貧しい下層民を低賃金で束縛し重労働をさせてむさぼっている。まず彼らへの束縛を解き、首に縛りつけている軛(くびき)をほどき、虐げられている人々をすべて解放し、彼らを束縛してきた軛をことごとくへし折って、今後これを使用できなくせよ。こうして肉体的、精神的、社会的拘束から弱く貧しい下層民を解放して、彼らの真の自由を与えることこそ神を信じる者の愛の業であり、これが本当の断食なのだ。現代的表現を用いれば、正義、自由、平等、福祉等を基本的人権として保障し尊重することが、偽善と化した断食に代わる神に喜ばれる罪のざんげであり、悔い改めである、ということではなからうか。

7節はこれをさらに具体化して、食べる者なき飢えた人、家なくしてさ迷う貧しい人、着る物なき裸の人、さらに困窮の中にある同胞への助けなどを惜しみなく無償でほどこすことではないか、と第三イザヤは言う。

これらの本当断食の真髓を新約聖書に中に求めるならば、マタイ福音書25章34~40節のイエスのお言葉ではなからうか。…

このイエスのお話は、今学んでいるイザヤ書58章6~7節とあまりにもよく似ている。イエスはここを思い出しながら話されたのかもしれない。しかしただ一つ違うところがある。それは「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたのである」と言われて、最も小さい者のご自身を一つにしておられることである。ここに至って私たちは断食などという旧約の宗教儀式とは次元の違う血の通った真の隣人愛の道を示される。このイエスの教えは、イスラエルという同胞愛から、全人類一人一人への隣人愛へと飛躍するのである。人権尊重の極致は、この隣人愛の実践にある。
(2006年10月「復活」第475号)